

もたもたして寺報を出せ
ずいたら、あつという間に
一年経ってしまいました。皆
さん、申し訳ありませんで
した。さて、古語で、縮小な
のですが、昨年（二〇〇八年）
の報恩講の報告です。
門信徒各戸をまわる「通
り報恩講」が、一〇月一日
よりはじまり、コースで約
千二百世帯、遠隔地を約
二百世帯、合計千四百世帯
の方が親鸞さまのご縁に合
われました。そして、十月
に蔵本通支坊と三津田支坊
で、十一月に長ノ木本坊で
お取り越し報恩講法座がつ
とまりました。そして、年が
明けて二〇〇九（平成二一）
年一月、「本山」で正當報
恩講がつとまり、各西教寺
でもそれぞれ勤修、一月末ま
で約五ヶ月間報恩講をお勤
めました。



東洋圓成の書。本願寺派司教。豊前学派東陽円月（勤学）の子で、東洋学寮を継承し、修学会の創設者。2003年佐藤さん宅で撮影。



通り報恩講でお参りするお宝がある。写真は暁島敏（一九四〇〜一九二〇）の書。大谷派僧侶で、『精神界』を発刊し、『歎異抄』を世に広めた人。二〇〇三年六吹さん宅で撮影。



蔵本通支坊を剪定のご報謝される齋藤さん。入院されていましたが、リハビリのつもりでやりますと。



溝掃除をして下さる小田原一さん。少しずつご報謝の仲間が増えて嬉しいです。



講師の本多静芳（東洋大学）先生。白道会でお話いただいた『歎異抄』の続きをお聞かせいただきました。後ろの荘厳な仏花は古江和子さん作。



お仏花をご報謝される古江和子さん。法座に生ける花の量は半端ではありません。

報 2008 (平成20) 年度 恩 講



三津田支坊おとりこしは、一満座参詣者にお接待がありました（精進料理・無料）。



蔵本通支坊名物精進うどん 1000人分の出汁を作っているとこ。こっそり焼き芋も作る。



ご法話の後はお楽しみのお齋（おとき・精進うどんといなり寿司）。



（←写真左）本多先生も皆とっしょに。お寺で食べると、おいしいクッキー（社会福祉法人「かしの木」製）がついてくる。



（↑写真上）蔵本通支坊のお齋のお世話をしてくださるスタッフの皆さん。



長ノ木本坊売店の皆さん。あれ? 蔵本通支坊の売店でも見たような。



いよいよご満座。明法寺さん、西教寺有縁の僧侶、ご門徒集まってもうひとつのお正信偈、念仏正信偈をおつとめ。



美味しそうな香りに吸い寄せられてやってきた「法務員」。

ご法話が終わつたら、会館進徳殿(通称表庫裏)でお齋。お寺で食べると味噌汁がついてくる。最近持ち帰りの方が増えています。今年から椅子式にしたが、たくさんの方がお寺で食べただささいました。



間に合うか? 会館進徳殿では最後の追い込み。ご満座のご法話中も盛りつけは続く。

安芸南組報恩講ほとけの子の集い at 西教寺蔵本通支坊



十一月二十五日は、安芸南組主催の報恩講ほとけの子の集い。おとめ法話の後には、呉レクレーション協会の方とゲーム。

みんなで合掌いただきます!。最近はお金を払っているから、学校給食やレストランで「いただきますと言わないでもいい」と教育する親が1割いるとか。「いのち」をいただくのです。ちゃんと伝えたいですね。

2009年 ご正當報恩講

ご苦労をみじんも感じさせず、終始にこやかにお話しされる水鷗さん。



の参詣者で大変なことになってしまいました。水鷗さんは京都女子大学を卒業後、中国新聞社、同話し方教室を経て現在フリーライター。離婚や

愛する人の自死、大腸ガンを患い、その後三度も死線をさまよわれ、現在も低酸素症で酸素を手放せません。何度も死ぬことを考えられたそうですが、色んな人との出会い、仏法と



食事の後はバルーンアート。大ちゃん(写真右) 大当たり。

前川たえこさん

編集者(智寧)がご縁をいただいている広島仏教学院がご縁で、このたび前川たえこさんが西教寺を所属寺として得度され、釋水鷗という名前のお坊さんとなりました。せっかくなので、長ノ木本坊ご正當報恩講で得度体験記でもお話いただくとうお願いしたところ。中国新聞に写真入りで紹介され、満堂



このころ売店は大忙し。問屋直送の昆布なんか、ちょっと手に入らない物売ってます。



小田原さん特製精進ケーキ。お精進で美味しくて毎年違うケーキを考えるのはさぞ大変なことでしょう。今年は栗。



出勤されたご法中（ほっちゅう）の皆さんも、お齋の後、小田原さん特製精進ケーキをおありがたいです。



本坊 お齋をホフンティアでお世話くださるみなさま、誠にホフンティアのこのことをこころから感謝いたします。また、ご報告はするのではなく、させていただく、いい伝えてきました。それは「お寺」というよりも「親鸞さま」「仏さま」への「感謝」。こんなに大切なことを私のところにお届けくださった「苦勞」やお手間は、とてももちままにはしておかれませんが、



切った後は数を数えて並べる。西教寺のお齋は、食材の一つ一つが超デカイ。昔ながらのお齋。



洗った食材をの皮を剥いたり切ったりしているところ。



まずは洗う。小芋を洗っているところ。



ふう～。昼ご飯。



昆布は、洗って切って結んで炊いて、もう一度結び直す。そうそう、こうやってね、と教える達人の春名さん。



14日15日の工程表。これだけではなく、あと16日もあります。



炊く。炊くものは大根、人参、小芋に小豆。何釜も炊いてススだらけ。このほか、酢の物なんかも作る。



本坊おとりこしご講師は、中川清昭（本願寺中央期間運動相談員）先生でした。楽しくハッキリ分かりやすいお話でした。



お世話人さんが奮闘されている頃、お本堂の参りはごらんの通りパラパラ。一番大事な法座のお参りがあまりにも少ないと、本末転倒になるのでお齋を止めねばならないかもしれません。ご門徒の皆さん、どうぞお参り下さい。

であ
の出会いを通して救われ、力強く生きておられます。大切な人にお会いする時は、おほぎを作ることにされているのだそうで、たくさんおほぎを作っておられて、皆おほぎを食べながら、和やかな雰囲気の中お聴聞しました。

新聞を見てご遠方よりご参詣下さった方もたくさんあり、終了後、もっと交流したいというお声が多くありました。それではということ



水嶋さん法座デビューの様子。満堂の人。



大速夜ライトアップ。残口ウを再利用。

で、後日、座談会形式で交流会を持ちました。それが毎月続いている、現在「たえさんと話そう（水嶋の会）」として、毎月蔵本通支坊で行っています。ご関心の方、どうぞ。

みんなでスキーに行きましよう



二月七日（土）、今年も佐々木謙吉さんにご指導頂き、キーパーク寒曳にスキーに行きました。今年でとうとう一〇回目になりました。それにしても、写真だけ見ると、雪がないのでどこへ行ったか分からりませんね。県内スキー場は温暖化で採算がとれず、どんどんつぶれていきます。スキーもいつまでできるか心配です（涙）。

進徳日曜学校卒業式



甚田さくらさん（中央）
焼山から通われました



新田望さん（前列中央）

去る三月七日、進徳日曜学校卒業式が行われました。

今年には新田望さん、甚田さくらさんの二名の仏の子が卒業しました。強く優しい心、心のスイッチは身についたかな？一生かけて学ぶ心でもあります。また、二人とも遠くからのお参りでした。毎回送迎された保護者の皆さんには、心より御礼申し上げます。敬意を表します。

敬悼 森ユカリさん

森山地区お世話人としてお寺を支えて下さいました。亡くなる寸前までお聴聞を欠かされませんでした。思いはしっかりとご家族が引き継いで下さいました。